

千葉大から京都府立医大への国内留学の1例

京都府立医科大学放射線診断治療学 / 千葉大学画像診断放射線診断学 横田 元

【目的】

国内留学のメリット、デメリットを私の1例を通じて論じる。

【背景】

33歳、男性。千葉県野田市出身、千葉大学医学部卒業。成田赤十字病院、千葉大学医学部附属病院で初期研修後、千葉大学放射線科に入局。入局後は、静岡県の沼津市立病院で2年半、千葉大学医学部附属病院で計3年半勤務。医師9年目での選択。

【方法】

数年間千葉大を出て、他の施設で勉強したいと思っていたのですが、行き先が決まらず悶々としておりました。また、娘が“ちっこく”産まれましたので、しばらく小児科フォローが必要ということもあり、直ぐに海外留学は難しい状況でした。そんな折、2013年の総会にて千葉大の宇野教授から京都府立医大の山田教授を紹介して頂いたことが最初のきっかけでした。当初は、そもそも京都府立医大がどういうところか知らず、何人かの方に相談させて頂きました。行くと決めた理由は様々ありますが、結局は、変化を求めていた自分の希望と、状況が合致したからだと思います。

【結果・考察】

1. 千葉大での仕事について

比較的小規模な放射線科におりましたので、専門医が一人抜けることは周囲に負担を掛けることとなります。忙しい状況でも私を送り出して下さった千葉大学の宇野教授・本折准教授には感謝してもしきれません。自分は神経内科・脳神経外科とカンファを持っていましたが、後輩にお願いしました。話を聞くに、とても活躍しているようです。良き後輩に恵まれた訳ですが、幸運だったとしか言いようがありません。

2. 京都府立医大での仕事について

スタッフとして日常業務、研究、学生・研修医指導を行っています。読影力向上、研究手法を学ぶこと、他施設のシステムを学ぶことを目標としました。山田教授へほぼ毎日神経画像のプレゼンをし、feedbackを受けることで、その知識のみならず、哲学を含めて学ばせて頂いて

おります。山田教授は目の前の画像から如何に多くの情報を得るかに主眼を置いた読影をされ、どちらかという臨床背景から迎えに行く形で読影していた私は、如何に所見を取れていなかったかと痛感しております。知らないことは診断できないとは言いますが、それを（たまに？いつか？）打ち破れるのはこういった読影法な気がします。まだ、出来ていません。

研究に関しては、新しいシークエンスについてデータ収集、解析をさせて頂いております。毎週水曜日にリサーチカンファを行っており、山田教授やPh.Dの酒井晃二先生から方法論や最近のトピックを学んでおります。画像解析の専門家が絡むとこんなにも話が膨らむのだというのは、本当に驚かされます。

京都府立医大における画像のオーダー、読影のシステムは千葉大とは大きく異なります。手間は掛かりますが、放射線科の立場を高めるような仕組みになっているように思われます。羨ましく思いつつも、千葉大にそのまま持つていくことは難しい点も多く、どのように反映させていけば良いか悩む日々です。どのようにこのようなシステムを作り上げたかについても山田教授は時間を割いて語って下さるので、大変勉強になります。

留学は自分が一方的に学ぶだけではなく、自分が何を提供できるか考えなければいけない、と聞いたことがあります。千葉大と京都府立医大では、各科の得意・不得意を反映して、読影対象となる症例が大きく異なっている部分があると思います。そういった分野に関しては、少しだけお役に立てているかもしれません。

3. 家族

私は、妻と1歳の娘の三人家族です。妻は呼吸器内科医であり、千葉大でスタッフとして働いております。彼女は昔から興味ある分野があり、その臨床・研究をするのに現在の職場は最適であり、出来るだけ働き続けたいと希望していました。先の娘の件、妻の両親が千葉大への勤務圏内に住んでおり、預けやすいということもあり、私が京都へ単身赴任することになりました。娘の成長を近くで見られないということは今でも残念に思っていますが、思いのほか京都と千

葉は近く、出来るだけ千葉へ帰るようにしています。21:30の終電に乗れば、千葉まで帰れます。新幹線は本当に偉大です。

4. 費用

助教という立場で雇って頂き、バイトを含めて十分な給料を頂いております。給与が得やすいというのは国内留学のメリットかもしれません。施設によっては単身赴任控除の制度がありますので、事前に問い合わせても良いかもしれません。

5. 生活

地下鉄丸線今出川駅周囲、1DK 10万円少々マンションに住んでいます。京都の家賃は一般的に高めだと思います。車があると便利ですが駐車場代も高く、無くても十分生活は出来ます。実際、持っていない医局員の方も多いです。

遊びの話をするのもなんですが、京都は美しい街です。現在紅葉の季節で、観光客・修学旅行生が押し寄せていますが、早朝に行けば煩わされることなく廻ることができます。住んでいるからこそ出来ることかもしれません。食文化のレベルの高さは、驚かされます。個人的には好物のラーメン屋が多く、色々な店に通わせて頂いています。森見登美彦や万城目学といった、京都出身作家の小説をより楽しめるのも良い点です。

【結論】

・メリット

具体的なことは先に述べましたので、もう少し

し抽象的なことを。自分の施設では得られないことを外に求めるということが留学の本来の意義だと思いますが、逆に自分が何を持っているのかを確認する機会だとも思われます。自分の実力を客観視するのは楽しくないことも多いですが、井の中の蛙という訳にも参りません。また、遠くの土地で同じようなことで悩み、同じように喜びを得ている人達がいることを知るだけで、励みのようなものを感じます。

・デメリット

繰り返しになりますが、放射線科医が充足していない施設が多い現状で、専門医が一人抜けることは周囲に負担を掛けることになります。対策は難しいですが、上司や同僚に希望を伝え、よく話し合うことが必要だと思います。

・留学を考えている方々へ

結局は人と人の繋がりでですので、コミュニケーションを密に取ることをお勧めします。飲み会ばかりではありませんが、そのような場に身を置くことも必要でしょう。留学に適したタイミングは分かりませんが、適さないタイミングは無いように感じています。若くとも熟していようとも、それぞれ得られるものがあるように思います。

【謝辞】

幸運に恵まれて、今の私がございます。今回の国内留学を支えて下さった千葉大・京都府立医大の皆様、相談に乗って下さった方々、家族に最大限の感謝を申し上げます。